

三九四 二月二十三日

在露都中島陸軍少将ヨリ
岡陸軍大臣及石井外務大臣宛(電報)

露国太公殿下日本ニ於ケル優遇ニ対シ謝意表

明ノ件

御電報ノ趣殿下へ申上ケタルニ深く御喜ニテ下官ヨリ宜敷

御礼申上ケル様トノ事ナリ尚ホ殿下ハ日本ニ於ケル優遇ニ
付テ感謝ニ堪エス最モ愉快ナル記念ヲ有スト申添ユル様御
話アリタリ来ル日曜殿下ト共ニ大本營ニ行ク

事項一三 閑院宮載仁親王露国訪問一件

三九五

七月八日 石井外務大臣ヨリ
在露国本野大使宛(電報)

露国太公殿下来航ノ答礼トシテ閑院宮殿下御
差遣ニ付先方都合問合方ノ件

第四一六号

今春ミハイロヴィッチ太公殿下御来航ノ御答礼トシテ閑院
宮殿下御差遣ノ御内議有之候処右ハ露国皇室ニ於テ満足ト
セラルベキヤ若シ然リトセバ露都御着ハ何時頃ヲ以而適當
トスルヤ先方ノ都合内密御問合ノ上電報アリタシ

三九六

七月二十三日 石井外務大臣ヨリ
在露国本野大使宛(電報)

閑院宮露国御差遣ニ関スル問合方督促ノ件

第四三二号

往電第四一六号問合ハ何日頃申入レラレタリヤ右ニ対スル
先方回答ノ得ラルヘキ日取ニ関シ御見込電報アリタシ

三九七

七月二十六日 在露国本野大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

一三 閑院宮載仁親王露国訪問一件 三九五 三九六 三九七 三九八

閑院宮御差遣ニ関シ露国外務省回答ノ件
第六二五号

貴電第四一六号及第四三二号ニ関シ閑院宮殿下ノ御著ハ露
曆九月中ナラバ最モ好都合ナル旨外務省ヨリ回答アリ

三九八

八月十四日 石井外務大臣ヨリ
在露国本野大使宛(電報)

閑院宮御旅程通報並露国皇帝ト御対顔ノ日取
確メ方ノ件

附記 閑院宮露国出張旅程
第四六八号

閑院宮殿下九月十一日御出発朝鮮御經由十五日ハルビンヲ
経テ二十三日貴地御着九日間御滞在ノ上十月三日貴地御出
発長春ヲ経テ十六日御着京ノ御予定ナリ尚ホ露国皇帝陛下
トハ貴地ニ於テ御対顔ノコトトナルベキヤ御確ノ上電報ア
リタシ

(附記)

載仁親王殿下露国出張旅程

九月十一日(月曜日)

午前八時三十分

東京御発

午後七時三十二分

京都御着

御一泊

同 十二日(火曜日)

午後七時三十八分

京都御発

同 十三日(水曜日)

午前九時三十八分

下関御着

同 十時十分

下関御発

午後九時十分

釜山御着

同 十時

釜山御発

同 十五日(金曜日)

午前九時三十分

長春御着

乗換

午後一時二分

長春御発

同日

ハルビン御通過

同 二十三日(土曜日)

ペトログラード御着

中九日間御滞在

三九九 八月十五日

波多野官内大臣ヨリ
石井外務大臣宛

閑院宮殿下露国御差遣ノ件

宮内大臣官
房文書課 宮発第一〇二六号

(八月十六日接受)

大正五年八月十五日

宮内大臣男爵 波多野 敬直(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

通牒

載仁親王殿下ヲ露国へ被差遣候旨本日御沙汰相成候也
追テ随行員左記之通

陸軍大将 内山 小二郎

式部官 吉田 要作

陸軍少将 中島 正武

宮内事務官 松井 修徳

皇族附武官 中島 操

陸軍歩兵中佐 黒沢 準

陸軍三等軍医正 合田 平

宮内属 千国 四郎

十月三日(火曜日)

ペトログラード御発

同 十二日(木曜日)

ハルビン御通過

同日

長春御着

乗換

同日

午後六時三十分

長春御発

同 十四日(土曜日)

午前六時十分

釜山御着

同 六時四十分

釜山御発

午後五時四十分

下関御着

同 七時十分

下関御発

同 十五日(日曜日)

午前九時十七分

京都御着

御一泊

同 十六日(月曜日)

午前九時二十四分

京都御発

午後八時三十分

東京御着

同 中根 信尾

四〇〇 八月十八日

在露国本野大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

露国皇帝トノ御対顔ニ関シ「コザコフ」氏内

話ノ件

第六八二号

貴電第四六八号後段ニ関シ露国外務省ヨリ大本営ニ移牒シタルヲ以テ追テ確答アルヘキモ八月十八日「カザコフ」カ丸毛参事官ニ外務大臣ノ言トシテ内話セル所ニ依レハ露国皇帝ハ目下大本営ヲ離レ難キ事情アルヲ以テ殿下トノ御対顔ハ多分大本営ニ於テナラントノコトナリ

四〇一 八月二十四日

石井外務大臣ヨリ
在本邦露国大使宛

閑院宮殿下露国へ御差遣並随員通知ノ件

人送第八四号

(在本邦露国特命全權大使「バジール、クルペンスキ
I」閣下宛)

以書翰致啓上候陳者今般閑院宮載仁親王殿下ヲ貴国へ差遣ハサル旨御沙汰有之左記ノ者随行被仰付候右貴国政府へ

通報方ハ在露本野大使ヘ及電訓置候間右様御承知相成度御心得迄ニ及御通知候此段申進旁本大臣ハ玆ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

陸軍大將	内 山 小二郎
特命全權公使法定博士	安 達 峯 一 郎
式部官	吉 田 要 作
陸軍少将	中 島 正 武
宮内事務官	松 井 修 徳
皇族附武官	中 島 操
陸軍騎兵大佐	黒 沢 準
陸軍歩兵中佐	黒 沢 準
陸軍三等軍医正	合 田 平

(右仏訳文)

Traduction.

No. 84

Tokio, le 24 août 1916.

Monsieur l'Ambassadeur,

J'ai l'honneur de porter à la connaissance de Votre Excellence, pour son information personnelle, que Son Altesse Impériale Monseigneur le Prince Kotohito Kan-in-no-Miya, a reçu l'ordre de se rendre en Russie et que les personnes ci-

les assurances réitérées de ma haute considération.

Signature de Ministre.

Son Excellence

Monsieur B. Kroupensky,

Ambassadeur etc., etc., etc.,

de Russie.

四〇二 八月二十八日 在露国本野大使ヨリ
石井外務大臣宛 (電報)

閑院宮殿下御出迎ニ関スル件

第七〇八号

閑院宮殿下御旅程ニ関シ哈爾濱ヨリ莫斯科ニ直行セラレ同地ヨリ直ニ大本営ニ赴カルルコトトシ Georges Michailovich 殿下同地迄御出迎ノコトニ決定セリ本使モ同地ニ於テ殿下ヲ御迎ヘスル筈ナリ露国側接待員 Tachishief 少将及 Bezack 大佐八月二十八日殿下御迎ヘノ為メ当地出発寛城子ニ向フ同地ニハ特別列車ヲ仕立ツルコトトナレリ尚ホ当館館員一名ハ陸軍武官ト共ニ Irkutsk マテ御出迎ノ手筈ナリ

dessous énumérées viennent d'être désignées comme suite de Son Altesse Impériale.

1. Le Général Kojirô Uchiyama;
2. M. Mineitiro Adachi, Hogaku-hakushi, Ministre Plénipotentiaire;
3. M. Yosaku Yoshida, Maître des Cérémonies;
4. Le Major-Général Masatake Nakashima;
5. M. Naonori Matsui, Maître de la Cour de Son Altesse Impériale;
6. Le Colonel de Cavalerie Misao Nakajima, attaché à la Personne de Son Altesse Impériale;
7. Le Lieutenant-Colonel d'Infanterie Hitoshi Kurosawa;
8. Le Médecin Major de Ire classe Hitoshi Goota.

Je me suis empressé de donner les instructions télégraphiques au Vicomte Motono, Ambassadeur du Japon à Pétrograd, d'informer le Gouvernement Impérial de Russie de ce qui précède.

Veillez agréer, Monsieur l'Ambassadeur,

四〇三 八月三十日 在露国本野大使ヨリ
石井外務大臣宛 (電報)

閑院宮殿下御帰朝ノ旅程露国側ヨリ問合ノ件

第七一五号

往電第七〇八号ニ関シ宮殿下ハ露京御滞在後莫斯科御經由御帰朝ノ御都合ナリヤ将又露京ヨリ直路御帰朝ノ次第ナリヤ露西亜側ヨリ問合アリタルニ付至急御回電アリタシ

四〇四 九月一日 在露国本野大使ヨリ
石井外務大臣宛 (電報)

露国皇太子ヘノ御贈物ニ関スル件

第七二五号

確カナル筋ヨリ聞ク所ニ依レハ閑院宮殿下大本営御着ノ際露国皇帝ハ皇太子御同伴同停車場迄御出迎遊サルヘシトノコトナリ就テハ往電第七一七号上申ノ通り皇太子ニ勲章御贈呈ノコト御見合セ相成リ然ルヘキモ何カ特別ノ御贈物御準備相成リ然ルヘシト思考ス

四〇五 九月二日 石井外務大臣ヨリ
在露国本野大使宛 (電報)

閑院宮殿下御帰朝ノ経路回電ノ件

第五一五号

貴電第七一五号ニ関シ宮殿下ハ御帰路莫斯科ニ御立寄ナク露都ヨリ直路御帰朝ノ筈

四〇六 九月七日 在長春山内領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

閑院宮殿下ノ御通過ニ関シ在哈爾濱總領事代理ヨリ請訓ノ件

第八七号

在哈爾濱佐藤總領事代理ヨリ左ノ通り

第三二号

閑院宮殿下当地御通過ニ関シ左ノ諸件東清鐵道長官代理 Guentze 氏ヨリ問合セ方依頼アリタルニ付殿下御随員ト御打合セノ上至急御返電ヲ請フ

第一 殿下ニ敬意ヲ表スル為当地護境軍団側ヨリ停車場ヘ儀仗兵整列セシメ度希望ノ所寛城子駅ニテハ御停車時間僅少ニ過キ哈爾濱駅ニテハ午後七時半御著ノ予定ニ付時刻余リ遅ク又露國鐵道ニ御移乗後六時間ヲ經過シテ初メテ儀仗兵ヲ差出ス事トナリ不都合ノ様感セラルルニ付何レノ停車場ニテ儀仗兵ノ敬礼ヲ受ケサセラルル方御都合好キヤ御内

四〇七 九月九日 石井外務大臣ヨリ
在長春山内領事宛(電報)

閑院宮殿下御通過ニ関シ在哈爾濱總領事代理

宛回訓ノ件

第七三号

貴電第八七号ニ関シ佐藤總領事代理ニ左ノ通り伝ヘラレタシ

第四四号

第一、全ク先方ノ都合ニ一任セラルル御考ナリ途中ハ御微行ナリ

第二、列車ノ事ハ露都本社ヨリノ命令通りニテ可ナリ

第三、日本食ハ必用ナシ

第四、差支ヘナシ

第五、大荷物十五個最長ノモノ十三尺余アリ其他トランク、手提カバン等大小約百二十位

四〇八 九月十一日 石井外務大臣ヨリ
在安東、奉天、鉄嶺、長春、哈爾濱、齊々哈爾各領事宛

閑院宮殿下御帰路日程通知ノ件

一三 閑院宮載仁親王露國訪問一件 四〇七 四〇八 四〇九

意承知シ得レハ好都合ナリトノ事ナリ御辞退ノ節ハ儀仗兵ノ配列ヲ廃スヘシト云ヘリ

第二 寛城子以北ノ特別列車ノ編成ハ露都本社ヨリノ命令ニ依レハ最後ニ御乗用「サルン・ワゴン」其次キ食堂車随員用一等車ノ順序ナル所此場合ニ随員ハ料理室ノ前ヲ通行スル必要アリ食堂車ト一等車ノ位置ヲ取換レハ此不便ナキモ差スレハ殿下ハ随員車ヲ經テ食堂車ニ入ラセラルルコトトナルヘシ御便宜ニ從ヒ何レカノ配置ニ決定致シ度シ

第三 列車ノ御食事ハ露國式ノ用意ハ万端整ヒ居ルモ殿下特別ノ御好ミアラバ予メ申聞ケラレタシ日本料理ナレハ料理人ヲ召連レアラハ好都合ナリトノ口吻ヲ洩セリ

第四 殿下御一行長春著ハ九月十五日早朝ノ御予定ニテ同地御発車午後一時半頃ナルヘク就テハ御発車前相当ノ時刻ニ露國列車ヲ同地ニ用意シ東清鐵道員ハ御発車ノ節列車前ニ整列シ御出迎スル事ニ致度シ右ニテ御差支ナカルヘキヤ

第五 御荷物係員ノ人数決定上參考ト致度ニ付御手荷物凡ソノ個数承知出来得レハ好都合ナリ

人合送第二三三号

今般閑院宮殿下露國皇室御訪問途次滿洲御通過ノ御日取ニ関シ長春宛往電第七二号、(安東、奉天、鉄嶺、哈爾濱、齊々哈爾宛ハ在長春領事ヨリ転電)ヲ以テ及御通知置候処同殿下御帰路日程ハ別紙ノ通ニ有之候此段申進候也

(別紙)

閑院宮御帰路日程

十月三日(火曜日)

ベトログラード御発

同十二日(木曜日)

哈爾濱御通過

同日

長春御着

乗換

同日(時刻未定)

長春御発

四〇九 九月十一日 石井外務大臣ヨリ
在露國本野大使宛(電報)

露國皇室ニ対スル我皇室ヨリノ御贈物ニ関スル件

附記 閑院宮露國御差遣ノ節ニ於ケル御贈進品

第五二五号

貴電第七二五号ニ関シ我天皇陛下ヨリ皇太子ヘ太刀老振御

贈呈ノコトナレリ尚ホ今回殿下御差遣ニ際シ天皇陛下ヨリ皇帝ヘ七宝扁額壹面七宝花瓶壹對我 皇后陛下ヨリ皇后ヘ壁掛式枚皇太后ヘ壁掛壹枚刺繡屏風壹隻御贈進ノコトナレリ

(附記)

載仁親王殿下露国ヘ御差遣ノ節ニ於ケル御贈進品

一 七宝扁額 孔雀ノ図 壹面

一 七宝花瓶 古代模様 壹対

右天皇陛下ヨリ露国皇帝陛下ヘ

一 壁掛 桜ノ図 壹枚

一 壁掛 孔雀ノ図 壹枚

右皇后陛下ヨリ露国皇后陛下ヘ

一 壁掛 富士山ノ図 壹枚

一 刺繡屏風 鷹ニ松ノ図 壹隻

右皇后陛下ヨリ露国皇太后陛下ヘ

一 太刀 中身 月山作 壹振

二十五日 午後ベトログラードニ御着

二十六日 Tsar Skoselo ニ於テ皇后陛下ニ御対顔

其日露都着ノ後

十月二日 御出発迄露都御滞在ニ内定ノ筈但シ御滞在

中多少変更アルヤモ知レス

下官ハ協議ノ上ゲオルギー殿下ト共ニモスクワニテ御迎ヒノ後露都御出発迄随行ニ決セリ

四一一 九月十六日 高山閑東都督府参謀長ヨリ
幣原外務次官宛

閑院宮殿下奉迎ニ関スル諜報送付ノ件

参謀第二六四号 (九月二十一日接受)

大正五年九月十六日

閑東都督府陸軍参謀長

高山 公通 (印)

外務次官 幣原喜重郎殿

別冊第八一号为参考及送付候也

(別冊)

諜第八一号

大正五年九月十六日 閑東都督府陸軍参謀部

右天皇陛下ヨリ露国皇太子殿下ヘ

以上

四一〇 九月十六日

山田陸軍次官ヨリ
幣原外務次官宛

閑院宮殿下御招待日割予定通牒ノ件

陸軍省 陸普第二九九〇号
送達 陸普第二九九〇号

大正五年九月十六日

陸軍次官 山田 隆一 (印)

外務次官 幣原喜重郎殿

閑院宮殿下御接待日割予定ニ関シ在露国石坂少将ヨリ陸軍大臣宛別紙ノ通り報告有之候条及通牒候也

(別紙)

電報訳 九月十一日午後十七時四分 発
陸軍大臣宛 露国石坂少将

宮殿下御接待ノ日割予定ハ

二十三日 夜 モスクワ御着其夜直ニ大本営ニ向ヒ御

出発

二十四日 昼 大本営御着皇帝陛下及皇太子殿下ニ御

対顔其日夜御出発

目次

露国

外交

五、閑院宮殿下ノ奉迎準備

雜報

一〇、「イルクーツク」ニ於ケル天長節

一一、滿洲里通信

露国外交

五、閑院宮殿下ノ奉迎準備 (哈爾濱通信)

特使宮殿下奉迎ノ為接待官トシテ侍從武官「タティンチェフ」少将外一名去ル八日哈爾濱ニ到着シ目下種々準備中ナルカ佐藤領事ヨリ聞ク所ニヨレハ殿下御一行ノ為ニハ特ニ宮廷列車ヲ充テラルコトナリタルカ右列車ノ室割等ハ来ル木曜日ノ急行ニテ列車長哈爾濱着ノ上定メラルル筈ナリ最初哈爾濱ニ於テハ停車時間少キヲ以テ (僅カ二十分間) 單ニ奉迎ニ止マリ「ホーム」ニモ最モ少数ノ人ヲ限リ入場ヲ許シ静肅ニ奉迎スルヤニ聞及ヒシカ九日「タティンチェフ」少将ノ露都ヨリ接セル電報ニヨレハ露帝陛下ニハ沿道ニ於テ出来得ル限り盛大ニ歡迎申上クル様トノ御思

召ナルヲ以テ長春、哈爾濱共ニ露国側ハ「ホーム」ニ儀仗兵ヲ出スコトトナリ随テ多少入場者ノ数ヲ増スコトトナリシ由ナリサレハ殿下モ哈爾濱ニ於テハ暫時「ホーム」ニ御出御アラセラルヘシトノコトナリ

佐藤領事ハ当地露国文武官ト共ニ長春マテ御出迎ヲナシ満洲里マテ御見送り申上クルコトトナリタリ、又大使官附武官小田切少将及大使館二等書記官ハ「イルクーツク」マテ御出迎申上クル筈ナリ

当日日本人側ヨリハ露国官憲ヨリ発行ノ入場券ノ交付ヲ受ケシモノニ限り領事館員以下在留民会役員都合約二十名入場ヲ許サルコトトナルヘシ、又、入場券発行ニ関シテハ護境軍区参謀長「バラノフ」大佐主トシテ其ノ局ニ当リツツアリト

露国雜報

一〇、「イルクーツク」ニ於ケル天長節

(イルクーツク通信)

当市ニ在留スル日本人ハ日露親善ニ向ヒツツアル關係ヲ利用シ何トカシテ自己ニ有利ナル地盤ヲ築カント焦慮シツツアリシカ如シ先ツ第一ノ手段トシテ天長節ニハ盛大ナル宴

フヘキ六、七名ノ者臨席セリ之トテ前同様ノ人物ナレハ其ノ無作法ヤ頓珍漢ナル事多ク実ニ冷汗ヲ流セリ、之ヲ要スルニ柄ニモナキ企テヲナシタルモノナリ、然レ共代表者ハ露国官憲ヲ引張り出セシコト御馳走ヲ食ハセシコトヲ名誉トシ得々タリ

露国警察本部側ニテハ当日ノ飲酒ノ集会ヲ許スヘキヤ、總督招待ノ意ヲ總督ニ通スヘキヤニ就キ躊躇スル所アリ警察側ニテハ總督ヲ招待スルハ余リ大袈裟ト見タルカ如シ之ヲ聞キタル代表者ハ集会ヲ許サス總督招待ノ意ヲ通セサレハ吾等ハ大使館ニ之ヲ報告シ露西亜ノ不親切ヲ訴ヘルヘシト脅威セリ

招待ニ接シタル總督ハ戰時中宴会ニハ列スル能ハス祝典ノ儀式ニノミ参列スヘキ旨回答セリ

八月三十一日午後四時日本人ハ当市ノ第二俱樂部ノ大広間ニ集合シ總督以下文武官約二十余名正装ニテ参列セリ聖影ヲ拝シ君カ代ヲ奉唱シ祝辞ヲ朗誦シ式ヲ終ル引続キ總督ハ当日ノ招待ヲ謝シ又日本ノ露国ニ対スル誠実ナル援助ヲ感謝シ終リニ我カ陛下ノ為「ウラー」ヲ三唱シ軍団長ハ日本陸軍ノ為「ウラー」ヲ三唱セリ

会ヲ催シ露国官憲並市ノ主ナル者ヲ招待シ之ニヨリ漸次近接セント企図セリ

招待状ヲ發シタルモノハ總督ヲ初メ軍団長副知事以下勅任官二十一名其ノ他文武ノ高官、市ノ名譽員ヲ合セ約三十五名ナリ

当地在留民ノ大部分ハ無智識階級ニシテ理髮屋、洗濯屋、青樓主人カ主ナルモノニシテ雜貨商人ノ如キモ床屋、洗濯屋ヨリ進化シタルモノ自己ノ姓名モ書キ得サル位ナリ、又目下仮ノ民會長ナル者モ無免狀ノ医者ニシテ北滿地方ヨリ遍歴シ来リタルモノナレハ其ノ程度モ凡ソ推定シ得ヘク如此者ノ揃ヒナルヲ以テ素ヨリ社交上ノ礼儀作法ヲ知ルニアラス只タ彼等ハ金ニ任セテ御馳走ヲ出セハ官憲ノ歡心ヲ買ヒ得ヘシト思ヒタルカ如シ、故ニ彼等ノ準備ノ最大ナルモノハ寄附金ヲ集ムルコト料理屋トノ交渉ナリ始終ヲ通シ高位高官ノ者ヲ如何ニ待遇スヘキヤハ毫頭彼等ノ知ル所ニアラス右ノ如キ有様ナルヲ以テ始メヨリ終リニ至ル迄冷汗背ニ流ルルヲ禁スル能ハサリキ

初メ日本人全部ハ露国官憲側ト同席ニテ開宴スルカ如キ計畫ナリシモ之レ丈ケハ分離シ官憲側ノ席ニハ代表者トモ云

總督及二、三ノ高官ハ直ニ退場セリ副知事以下十四、五名ハ宴会ニ臨メリ

以上ノ如ク昨日ハ礼儀作法、高位高官ノ者ノ待遇法等ニ於テハ遺憾ノ点多カリシモ多数ノ貴顯紳士カ正装シテ日露國旗ノ交叉シタル会場ニ陸續トシテ來場スル光景ヲ見タル当市ノ市民ハ確ニ日本人ノ一勢力ヲ認メタルナルヘシ此点ヨリ見レハ昨日ハ一種政略上ノ成功ト云フヘシ

然レトモ何時迄モ無作法ヲ継続セシムヘカラス速ニ当地ニ領事館ヲ設置シ在留民ノ發展ヲ講スルト同時ニ露西亜官憲ニ対シ威アル代表者タランコトヲ希望スルヤ切ナリ

尚当日ノ状況ヲ知ル為日露ノ交談ト題スル「イルクーツカヤデーズニ」紙ノ記事ヲ参考トシテ訳出スレハ左ノ如シ
八月三十一日ハ日本 天皇陛下ノ天長節ナルヲ以テ「イルクーツク」在留日本人ハ各戸休業シテ日露兩國国旗ヲ掲揚セリ又同日在留日本人ハ第二市民集会所ニ於テ祈禱式ヲ執行シ左記露國ノ文武官其ノ式場ニ参列セリ

「イルクーツク」總督「ピョリツ」氏「イルクーツク」軍管司令官歩兵大將「シキンスキー」氏「イルクーツク」県知事「ユーガン」氏副知事「イズマイロ

フ」氏控訴院長大審院議官「エラーコフ」氏控訴院判事「ニヤンデル」氏「イルクーツク」市長「ボプロフスキー」氏東部西伯利諸學校監督官「ワシーレンコ」氏醫務監督官「ニキーテンコ」氏県庁事務官「ラルギン、ワシーリエフ」氏、公立「クズネツキー」病院長郵便局長警察本部長其他

祈禱前式ニ參列セシ在留日本人ハ一同君カ代ノ唱歌ヲ合唱シ会衆「ウラー」ヲ高唱シテ之ニ和シ在留日本人ノ一名祈禱ヲナシ終ルヤ先ツ總督「ピーリツ」氏祝辭ヲ述ヘタリ次テ「スキンスキー」軍管司令官同シク祝辭ヲ述ヘタリ「ドノテロ」氏（伊太利人ニシテ「イルクーツク」市ニ多数ノ活動写真館劇場等ヲ所有スル興業師）在留日本人ヲ代表シテ左記ノ意味ニテ演說セリ

本日ハ日本皇帝陛下天長節ノ佳辰ニ當リ茲ニ会合セシ我々「イルクーツク」在留日本人ハ滿腔ノ喜ヲ以テ此祝日ヲ迎フルト同時ニ我々ノ招キニ応シ斯ク多数ノ紳士殊ニ高位高官ノ人々來会セラレタルハ甚タ光榮トスル所ニシテ我々一同ハ実ニ感激ニ堪ヘス我々ノ同盟者タル露人側ヨリ如此交情ヲ寄セラレタル事力遠ク日本

去月二十八日潜航艇ラシキモノ一艘輸送スルヲ見受ケタリ馬糧ハ前報ノ如ク本季節ニシテ殊ニ輸送増加セリ

二、当地方兵ノ移動モ別ニナク只前報告中ノ新規召集ノモ各所ニ分入セシテ聽リノミ

三、羅國騷起ニ對スル当地一般民ハ祝賀ナトノ騒ギハセサルモ歡迎的ニ話題ニ上レリ冷靜ナルハ戰爭アルカ為ニ各自ノ商業的利益多キト猶太人多キ結果ナリ同時ニ露國ノ大敗ノ報ニ接スルトキハ反對ニ其ノ騒ギ大ナリ兎ニ角倦怠ノ狀見ユ

四、物価ハ騰貴一方ニテ逐日日常食用品トモ昂上セリ

但シ一方ニハ家屋ノ建築借家ノ騰貴ハ不景氣ヲ意味セス益々現実シツツアリ

五、日支重要交渉問題及蒙軍等ニ對シテハ何等当地方ニ於テハ没交渉問題ニ上ラス

本書發送先

外務次官 參謀次長 陸軍次官

支那公使館附武官 支那駐屯軍司令官 朝鮮總督附武官 朝鮮駐劄軍參謀長 朝鮮駐劄憲兵隊司令官 南滿洲鐵道株式會社總裁 關東都督府民政長官 關東憲兵隊長 独

ニ伝ハリ我カ同胞ノ知ル処トナラハ日本ノ一般臣民ニ對シ多大ノ感動ヲ与フヘシト確信ス我々在留日本人ハ滿堂ノ紳士諸君ニ對シ態々來会セラレタル御厚情ヲ衷心感謝スルト同時ニ諸君カ我々ト共ニ茲ニ粗末ナル食卓ヲ俱ニセラレンコトヲ希フ云々

夫レヨリ中食ノ宴ヲ開キ歛ヲ尽シテ散会セリ

訳者曰ク「イルクーツク」在留日本人ハ殆ト全部労働者ニシテ紳士乃至智識階級者極メテ尠ク又從來同市ニ於テ日章旗ヲ掲クル事スラ絶對ニ禁止セシニ拘ハラス同市ニ於ケル文武最高官ノ殆ト全部カ階級低キ在留邦人ト一堂ニ会シ天長節ノ祝賀會ヲ催セシカ如キハ實ニ破天荒ナリト云ハサルヲ得ス

一一、滿洲里通信

（九月四日）

一、当地ニ於ケル軍需品輸送狀態ハ依然トシテ前報告ト大差ナク日々百四、五十輛トス
軍需品中著シク減少セルハ食料品ニシテ兵器及彈火藥等ハ矢張り日々通過ス
軌条モ輸送スレトモ六、七月ノ頃ニ比シ稍々減少セリ蹄鉄ハ少シク増加セリ

立守備隊司令官 第十七師團參謀長 青島守備軍參謀長 奉天總領事

四一二 九月十九日

在浦潮野村總領事代理ヨリ 石井外務大臣宛

閑院宮殿下御通路警戒方ニ關スル件

公第一九七号

（九月二十五日接受）

大正五年九月十九日

在浦潮斯德

總領事代理 野村基信（印）

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

今般閑院宮載仁親王殿下御訪露ニ際シ御通路ノ警戒方ニ關シテハ予メ露國政府ニ御交渉相成万々御手落無之コトト存候ヘ共万全ヲ期スル為本官ハ沿黑竜江總督ニ對シ書面ヲ以テ殿下往復ノ御旅行日程ヲ通知スルト同時ニ沿道ノ警戒ヲ嚴重ニシ特ニ朝鮮人中ニハ不逞ノ徒ナシトモ限ラレサルニ付殿下御通過ノ際東清鐵道沿線ニ朝鮮人ヲ近ヅケシメザル様交渉シ尚「イルクーツク」總督ニ對シテハ電報ヲ以テ沿道ノ警戒ヲ嚴重ニシ特ニ朝鮮人ニ對シテハ監視ヲ怠ラサル様依頼致置候処前者ヨリハ警戒ニ關シ必要ナル一切ノ方法

ヲ執リ置候旨回答越候ニ付為念此段及御報告候 敬具

四一三 九月二十四日

在モスコイ平田総領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

閑院宮殿下モスコイ御安着ノ件

第三九号

閑院宮殿下二十三日午後八時三十分当地へ御安着ゲオルギ
ー、ミハイロヴィッチ太公殿下ヲ初メ露国文武高官及本野
大使以下本邦諸官ノ御出迎ヲ受ケサセラレ莫斯科市長力
迎ノ辞ヲ述ヘタルニ対シ鄭重ナル御答詞アリ更ニ停車場
玄關ニ於テ親シク一般群衆ノ歡迎ヲ受ケサセラレタル上同
時大本營ニ向ケ御出發遊ハサレタリ

四一四 九月二十八日

在露国本野大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

閑院宮殿下露都御到着ノ件

附記

在露日本大使館附陸軍武官ヨリ陸軍大臣宛電報
閑院宮殿下露国皇后陛下ニ拝謁ノ件

第七九三号

閑院宮殿下沿道至ル所官民ノ大歡迎ヲ受ケ莫斯科大本營所
在地キーエフ(皇太后陛下御滞在)ヲ經テ九月二十七日御

政第八二号

(十月三十日接受)

大正五年十月一日

在莫斯科

総領事代理 平田 知夫(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

閑院宮殿下ニハ御予定通り九月二十三日午後八時三十分当
地「アレキサンドル」停車場ニ御安着遊バサレタルガ「ゲ
オルギー、ミハイロヴィッチ」太公殿下ヲ始メ莫斯科軍管
区司令官警視總監知事衛戌司令官市長其他露国文武高官及
本野大使石坂大本營附武官鈴木大使館附武官及本官ノ御出
迎ヲ受ケサセラレ「ブラツトホーム」ニ於テ儀仗兵ノ御閱
兵アリ尋テ歡迎式場ニ当テラレタル貴賓室ニ入ラセラレタ
ルガ市長「チヨルノコフ」氏ハ渡辺書記生ノ通訳ニテ左ノ
意味ノ歡迎辞ヲ言上シタリ

殿下

莫斯科市会及全市民ニ代リ謹テ敬意ヲ表シ吾等ハ茲ニ露
国ノ心臓タル莫斯科城ニ於テ日本皇室ノ御一員タル殿下
ヲ迎ヘ奉ルヲ欣幸トス唯御旅程ノ御都合上当局ヲ普ク御
観覧ニ供スルノ機会ナキヲ憾ム

無事露都ニ到着セラレタリ

(附記)

在露大使館附武官

陸軍大臣

二十八日殿下ハ「ツアル、スコエセロ」ニ於テ皇后陛下ニ
拝謁遊ハサレ之レニテ御無事任務ヲ終了セラレタリ

註

右ハ陸軍省ヨリ外務省係官ニ電話ニテ通知セラレタルヲ記
録シタルモノナリ

四一五 九月三十日

在露国本野大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

閑院宮ノ動靜ニ付内山隨員ヨリ宮内大臣ニ報

告ノ件

(十月一日接受)

内山大將ヨリ宮内大臣へ

三十日殿下ハ士官学校及兵器製造所ヲ御覽アリ王宮ニ於テ
午餐ヲ催サレ露国各皇族及其他ノ高官ヲ御招待遊ハサレ日
露協會ノ晚餐ニ赴カレタリ総テ無事

四一六 十月一日

在モスコイ平田総領事代理ヨリ
石井外務大臣宛

閑院宮殿下奉迎状況報告ノ件

吾等ハ露日兩國ノ關係カ友好且ツ同盟ノ性質ヲ有スルニ
至リタルヲ喜ブ而シテ戰場ニ於ケル同胞的親和カ我同盟
ヲ鞏固ニシ且ツ相互ニ相識リ相接近スルノ一事ガ兩國間
ノ広大密接ナル商工業並ニ經濟上ノ關係ヲ益相互の有利
ノモノタラシメ更ニ極東ニ於ケル鞏固ナル平和ヲ保持ス
ル所以ノモノタルヲ信ス

茲ニ謹テ殿下ニ対シ全露国民カ熱誠ナル同情ヲ表シツツ
アル御旅行ノ平安ナランコトヲ祈リ吾國ノ旧慣ニ基キ麵
包及塩ヲ献上スルノ光榮ヲ有ス

右ニ対シ殿下ヨリ左ノ意味ノ御答辭アリ

市長貴下

露国ノ歴史の大都市ニシテ現ニ大ニ重キヲナセル莫斯科
市ノ敬意並ニ貴下ノ陳ヘラレタル懇切ナル言辭ニ対シテ
感謝ノ意ヲ表ス貴市曾遊ノ記憶ハ常ニ鮮ナル次第ナルガ
今晚短時間ナカラ再ヒ諸君ト相会スルヲ得タルヲ喜ブ
貴下ノ所述ノ如ク兩國間相互信任及隔意ナキ友誼ノ關係
カ益密接ノ度ヲ加ヘタルハ同慶ノ至ニシテ兩國国民ノ同胞
的親和ガ文明及人道ノタメニ寄与スル所多カラシコトヲ
信スル次第ナリ

玆ニ全市民繁榮ヲ祈り併セテ丁重ナル贈品ニ対シ謝意ヲ表ス乞フ此意ヲ普ク市民ニ伝達セラシコトヲ」

右終テ別室ニ於テ茶菓ノ饗応ヲ受ケサセラレ太公殿下始メ参列諸員ト種々御談話アリ而シテ此時迄ニ一般民衆ノ歓迎ノ誠意ヲ表センガタメ停車場前ニ來集マルモノ三万余ノ多キニ達シ万歳ヲ連呼シテ止マズ未曾有ノ盛観ヲ呈シタルガ殿下ハ太公殿下ノ御案内ニテ玄関ニ出テサセラレ親シク彼等ノ歓迎ヲ受ケサセラレタリ

斯クテ殿下ハ太公殿下ト共ニ御乗車前記参列諸員ノ奉送裡ニ同十時大本營ニ向ケ御出發遊ハサレタリ

今回ノ奉迎ニ於テ特筆スヘキ御旅行ノ安全ニ対スル警備ノ嚴重ヲ極メタルコト一般市民ノ歡迎熱烈ナリシコトコレナリ露国官憲ハ殿下ノ御旅行ニ些細ノ支障ヲモ醸ササランコトヲ努メ殊ニ敵国間諜ノ出沒測ルヘカラザルニ加ヘテ「チタ」市ニ於ケル要注意朝鮮人カ突然踪跡ヲ晦マシタリトノ報アリタル等旁々万一ヲ予防スルニ極力意ヲ用ヒタルカ如ク奉迎参列員モ単ニ文武高官並ニ市及「ゼムストウオ」及貴族團ノ代表者ノミニ制限シ御停車中ハ憲兵ノ活動以外密偵ヲ放チテ参集者ヲ監視セシムルニ至レリ隨テ在留一般

ノ途ニ就カル

四一八 十月五日 在露国本野大使ヨリ
石井外務大臣宛

閑院宮殿下露国御訪問ノ件

附屬書一 露国皇帝乾杯ノ辞

二 閑院宮御答辞

附 記 閑院宮言上振

公第一七一号 (十月二十四日接受)

大正五年十月五日

在 露

特命全權大使子爵 本 野 一 郎 (印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

閑院宮殿下御渡來ニ付松島書記官ヲ「イルクーツク」市ニ遣ハシ同地ニ殿下ヲ迎ヘシメ本使ハ九月二十三日莫斯科ニ於テ殿下ヲ奉迎セリ莫斯科ニ至ル迄西比利沿道各駅皆日露両国国旗ヲ掲ケテ歡迎ノ意ヲ表シ重ナル都市ノ停車場ニハ儀仗兵配置セラレ軍樂隊ハ君力代ヲ奏シ其ノ地ノ高官殿下ヲ奉迎シ莫斯科市ニ於テハ殊ニ露国皇帝陛下ノ御名代「ジョージ、ミハイロヴィッチ」太公殿下ノ御出迎アリ旁

本邦人モ或ハ警戒ニ煩累ヲ及ボサンコトヲ慮リ奉迎式ニ参列スルコトヲ差控ユルコトトナセリ又一般市民歡迎ノ熱烈ナリシハ殆ント予想外ト謂フヘク殿下御來着ノ日取等ハ警戒上ノ必要ヨリ当日迄公表セラレズ且ツ警備当局者ハ可成民衆ノ來集ヲ避ケントシタルニ拘ラズ前記ノ如ク停車場前ニ於テ未曾有ノ「デモンストレーション」ヲ行ヒタルハ全ク一般市民ノ自發的行動ニシテ殿下ニ対スル熱烈ナル誠意ノ発露ニ外ナラザルナリ

右九月二十三日發往電第三十九号補遺旁々及報告候 敬具

四一七 十月四日 石井外務大臣ヨリ
波多野宮内大臣宛

閑院宮殿下露都御出發ノ件

送第二一〇号

閑院宮殿下露都御出發ノ儀ニ関シ別紙寫ノ通在露本野大使ヨリ電報有之候条右写玆ニ及御送付候也

(別 紙)

(十月二日本野大使發石井外務大臣宛電報)

第八〇八号 (十月三日接受)

閑院宮殿下十月二日午後三時特別列車ニテ当地御出發歸朝

其ノ歡迎頗ル盛ニシテ市長ハ市民ヲ代表シテ歡迎ノ辞ヲ述ヘ殿下ハ之ニ御答アリタル後露国ノ旧慣ニ從ヒ同市ヨリ殿下ニ捧ケタル「麵包ト塩」ヲ受納セラレ暫ク御休憩ノ後停車場入口ニ臨マセラレタルニ夜間ニモ拘ハラス駅前ノ広場ニ集マレル數万ノ群集ハ一斉ニ万歳ヲ唱ヘ以テ露国民カ如何ニ殿下ノ御渡來ヲ歡迎シタルカヲ示セリ夫レヨリ殿下ハ「ジョージ」太公ト共ニ本使隨員等ヲ從ヘテ大本營地ニ向テ出發セラレ二十四日午後零時半同地ニ着セラル同地特別駅前ニハ「ゲオルギー」勳章ヲ有スル兵卒ノミヨリ成ル儀仗兵整列シ殿下ノ下車セラルルヤ露国皇帝陛下ハ皇太子殿下並各太公殿下ト共ニ文武大臣ヲ從ヘテ殿下ヲ迎ヘラル殿下ハ直ニ闕兵ヲ行ハレ次テ隨員ヲ陛下ニ御紹介申上ケタリ終テ皇帝陛下皇太子殿下各太公殿下先停車場ヲ去ラレ続テ殿下ハ「ジョージ」太公ト御同車本使及隨員ヲ從ヘテ大本營ニ向ハセラル大本營所在地ニ於テハ各戸日露両国国旗ヲ掲ケテ歡迎ノ意ヲ表シタリ

大本營ニ着セラルルヤ直ニ陛下ノ御居間ニ於テ殿下ハ親シク天皇陛下ノ勅旨ヲ露国皇帝陛下ニ伝ヘラレタリ

同日大本營ニ於テ午餐アリ席上露国皇帝陛下ハ大要「朕ハ

殿下ノ御渡来ヲ以テ日露兩國ノ關係ヲ益親密ナラシメムトスル日本国皇帝陛下ノ御意思ノアル所ヲ証スルモノト思惟ス兩國ノ關係ハ共同ノ敵ニ対スル干戈ノ友タルニ依リ愈確固トナレリ朕ハ茲ニ日本陸海軍ノ武勇ヲ稱賛シ武器供給ニ関スル日本政府ノ尽力ヲ感謝ス殿下ハ親シク日本ニ対スル露国ノ好感ヲ觀取セラレタルナラム冀クハ右友情ヲ日本国皇帝陛下ニ伝奏セラシムコトヲ朕ハ日本国皇帝皇后両陛下ノ御健康日本陸海軍ノ名譽並日本国ノ繁盛ヲ祝シテ杯ヲ挙グ」(別添第一号写真参照)ト述ヘサセラレ殿下ハ之ニ対シ大要「陛下予ハ陛下ノ厚キ御言葉日本陸海軍ニ対スル稱賛及今回ノ旅行中受ケタル優遇並出迎ノ為陛下御名代トシテ莫斯科迄「ジョージ、ミハイロヴィッチ」太公殿下ヲ遣サレタルニ対シ衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表スルモノナリ予ハ此ノ旅行中露国官民ヨリ受ケタル好遇ヲ日本国皇帝陛下ニ奏上シ且日本国民ニ知ラシムヘク而シテ右ハ必スヤ日本ニ於テ深キ印象ヲ与フルコトト信ス陛下ノ述ヘラレタル如ク日露兩國關係カ益親交ヲ加ヘタルハ誠ニ慶賀スヘキコトナリ陛下願クハ此ノ機ニ於テ予ヲシテ二年有余ノ間不撓ノ勇氣ヲ以テ戦ヒツツアル勇敢ナル露軍ニ対シ噴賞ノ意ヲ表セシメ

文武百官ノ御出迎ヲ受ケラレタル後「ジョージ」太公ト馬車ニ御同乗冬官ニ入ラセラレタリ露都ニ於ケル歡迎ハ頗ル盛ニシテ各戸日露兩國国旗ヲ掲ケ沿道ハ群集ヲ以テ充タサレ万歳ノ声四方ニ挙レリ

同夕太使ハ大使館ニ殿下ノ御来臨ヲ仰キテ晚餐ヲ献シ午後九時半殿下ハ大使館ニ参集シタル在留民ノ重ナルモノ數十名ニ謁ヲ賜ヒ本使ハ是等居留民ト共ニ杯ヲ挙テ殿下ノ御安着ヲ祝シ奉リ

九月二十八日午前殿下ハ先帝聖歷山三世ノ御墓所ニ詣テ花環ヲ供セラレタル後露国皇后陛下ニ謁見ノ為「ジョージ」太公ト共ニ本使及随員ヲ從ヘテ「ツアル、スコエセロ」ニ赴カル午後零時四十五分殿下ハ皇后陛下ニ御対顔アラセラレタル後随員ヲ陛下ニ御紹介申上ケタリ午後一時皇后陛下ノ午餐アリ終テ露都へ御帰還同日總理大臣兼外務大臣「スチュエルメル」氏ノ晚餐ニ臨マレ翌二十九日「ジョージ、ミハイロヴィッチ」太公殿下ノ午餐ニ赴カル同日日本使ハ晚餐ヲ催シテ殿下並「ジョージ」太公殿下ノ御臨席ヲ仰キ統テ夜会ヲ催シテ露国朝野ノ名士列国外交官貴婦人等五百余名ヲ招待シタルカ殿下ハ其ノ重ナル者ト親シク言葉ヲ交ヘサ

ヨ予ハ最後ノ勝利ノ露軍ニアルヲ信シテ疑ハサルモノナリ予ハ陛下皇后皇太后両陛下並全皇室ノ御健康及露国民ノ隆盛ヲ祈リテ杯ヲ挙ク」(別添第二号参照)ト答ヘラレタリ

右午餐ヲ終ヘテ殿下ハ一先御乗用列車ニ帰還セラレ午後七時更ニ大本營ニ於ケル皇帝陛下ノ晚餐ニ赴カレ終テ直ニ「ジョージ」太公ト共ニ本使及随員ヲ從ヘテ「ギエフ」ニ向ケ出發セラレタリ

二十五日午後二時半ギエフ御到着停車場ニハ儀仗兵ノ配置アリ殿下文武高官ノ御迎ヲ受ケラレタル後直ニ同市ノ歡迎場ニ臨マレタルカ沿道ノ群集ハ万歳ヲ唱ヘテ殿下ヲ迎ヘ奉レリ歡迎場ニ於テ市長ハ歡迎ノ辞ヲ述ヘタル後「麵包ト塩」ヲ捧置シ終テ殿下ハ新設軍道負傷將校病院等ヲ御巡覽ノ上本使及随員ヲ從ヘテ午後七時半皇太后陛下ノ宮殿ニ赴カレ同陛下ニ御対面ノ後随員ヲ陛下ニ御紹介申上ケタリ同日午後八時皇太后陛下ノ晚餐アリ終テ午後十時殿下ハ露都ニ向ケ出發セラレタリ

九月二十七日午後三時露都「ツアルスコエ、セロ」停車場ニ御到着同停車場ニハ儀仗兵ノ配置アリ殿下ハ各太公殿下

セラレタルヲ以テ各人大ニ満足シタル様見受ケタリ

九月三十日殿下ハ其ノ御旅館タル冬宮ニ於テ離別ノ為露国各太公殿下文武高官大使館員大使館附武官等八十名ヲ午餐ニ招カレタリ同日殿下ハ露日協会ノ晚餐ニ臨マレ同協会會長コツォフ伯ノ乾杯ノ辞ニ対シ殿下ハ日露協会名譽總裁タル資格ヲ以テ懇ニ御答辞ヲ述ヘサセラレタリ

十月一日午後四時殿下ハ「ベトログラード」市ノ歡迎会ニ臨マレタルガ市長ハ歡迎ノ辞ヲ述ヘ記念ノ為トシテ市ノ贈物ヲ捧置シ殿下ハ御答辞ヲ述ヘラレタル後右贈物ヲ受納セラレタリ終テ御饗応トシテ帝國劇場名優音楽ノ大家数名ノ演奏歌舞アリ同殿下ハ「マリー」劇場ノ「パレー」ヲ御觀覽アリタリ

右ノ外殿下ハ露都御滞在中各種博物館兵器工場騎兵学校傷病兵病院等ヲ御巡覽アラセラレタリ

茲ニ殿下ハ其ノ御使命ノ全部ヲ果サレ露国上下ノ歡迎ニ御満足遊ハサレツツ十月二日午後三時各太公殿下文武百官ノ御見送ヲ受ケテ無事御帰朝ノ途ニ就カセラレタリ右及報告候 敬具

追テ殿下御来露ノ節ハ大使館附武官小田切少將ハ「チェ

リヤビンスク」ニ殿下ヲ迎ヘ御帰路ノ節ハ同補佐官橋本大尉「エカテリンブルグ」迄殿下ヲ御見送り申上ケタリ

註 閑院宮ヨリ天皇陛下ノ觀言ヲ露国皇帝陛下ニ伝ヘラレタル御言葉ニ付テハ左掲ノ附記參看

(附屬書一)

別添第一号寫

九月二十四日露国大本營午餐會ニ於ケル露国皇帝陛下乾杯ノ辭

Je considère l'arrivée de Votre Altesse Impériale en Russie comme une nouvelle preuve du désir de Sa Majesté l'Empereur du Japon de resserrer les liens d'amitié qui unissent Nos deux Empires. Ces liens ont été consacrés par une confraternité d'armes dans notre lutte contre un ennemi commun, et Je me plains à reconnaître la bravoure, déployée à cette occasion par l'armée du Japon et aussi la vaillance de sa flotte. Je reconnais aussi le service rendu à la Russie par le Gouvernement japonais dans la question des armements fournis à Mon armée.

Votre Altesse Impériale pendant son séjour en Russie pourra s'assurer en Personne de la

Je suis vraiment ému, Sire, du magnifique accueil que Votre Majesté a daigné me réserver pendant ce voyage. La haute bienveillance qu'Elle a bien voulu me témoigner en envoyant à ma rencontre Son Altesse Impériale le Grand Duc Georges Mikhailovitch jusqu'à Moscou comme Son représentant personnel, m'a causé une joie infinie. Je prie Votre Majesté Impériale de daigner accepter l'expression de mes sentiments de la plus sincère reconnaissance. Je ne manquerais pas de faire connaître minutieusement à Sa Majesté l'Empereur, mon Souverain et à la nation japonaise de toutes les marques de sincère sympathie dont j'ai été comblé par les autorités et le peuple russes, pendant tout le cours de mon voyage et je suis persuadé que les échos de ma mission en Russie produiront au Japon la plus profonde impression.

Comme Votre Majesté a bien voulu le rappeler, je constate avec bonheur que nos relations de mutuelle confiance et de franche amitié viennent de se resserrer encore davantage,

vive sympathie que règne dans Mon Empire pour le Japon, et Je Vous prie de porter l'écho de cette amitié cordiale à la connaissance de Votre Souverain.

Je lève Mon verre à la santé de Sa Majesté l'Empereur du Japon, à celle de Sa Majesté l'Impératrice et aussi à la gloire de l'armée et de la marine japonaise et à la prospérité du Japon.

(附屬書二)

別添第二号寫

九月二十四日露国大本營午餐會ニ於ケル露国皇帝陛下乾杯ノ辭
ニ對スル閑院宮御答辭

Sire,

Je suis profondément touché des paroles si aimables que Votre Majesté Impériale vient de m'adresser. Je suis particulièrement sensible à l'hommage qu'Elle a bien voulu rendre à l'armée et la flotte japonaises. Je ne doute pas Sire que les paroles si bienveillantes de Votre Majesté aient un écho retentissant et joyeux dans notre armée toute entière.

consacrées par une confraternité d'armes.

A cette occasion, je prie Votre Majesté de me permettre de rendre à mon tour un hommage sincère et éclatant à la vaillante armée russe qui lutte depuis plus de deux ans avec un courage et une énergie indomptables qui lui ont valu récemment encore tant de splendides succès. Et c'est avec une joie immense que j'exprime ici ma plus profonde conviction dans sa victoire finale et définitive.

Sire, permettez-moi de lever mon verre en l'honneur de Votre Majesté Impériale, de Sa Majesté l'Impératrice, de Sa Majesté l'Impératrice Douairière et de toute la Famille Impériale, avec les vœux les plus sincères pour la grandeur et la prospérité de la noble nation russe.

(附記)

九月二十四日露国大本營ニ於テ閑院宮ヨリ天皇陛下ノ觀言ヲ露国皇帝陛下ニ伝ヘラレタル御言葉

Sire,

Par ordre exprès de Sa Majesté l'Empereur,

mon Auguste Maître, je viens auprès de Votre Majesté Impériale, en qualité de Son représentant personnel, pour avoir l'honneur de Lui exprimer de vive voix Sa profonde gratitude de ce que Votre Majesté Impériale a daigné envoyer à la Cour de Tokyo, le printemps dernier, Son Altesse Impériale le Grand Duc Georges Mikhaïlovitch comme son représentant personnel, afin de Lui faire présenter les cordiales félicitations de Votre Majesté Impériale à l'endroit de la récente célébration de la cérémonie de Son avènement au Trône, et de Lui faire remettre, ainsi qu'à l'Impératrice, les plus précieux insignes en témoignage de la cordiale affection de Votre Majesté Impériale et de Sa Majesté l'Impératrice Douairière à leur égard.

Notre Empereur, profondément convaincu que la dernière visite du Grand Duc Georges au Japon a puissamment servi à resserrer davantage les étroites relations de concorde, de confiance mutuelle et de la communauté des intérêts, existant entre le Japon et la Russie, et sincère-

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

閑院宮殿下御来露ニ対スル当地新聞論調別紙ノ通及報告候
敬具

(別紙)

閑院宮殿下露国訪問ニ関スル同国新聞紙ノ論調

九月二十六日ビルジエヴキヤ、ヴキトムステ社説

閑院宮殿下御参内ノ節皇帝陛下ガ賜ハリタル乾盃辞及之ニ
対スル殿下御答辞ハ何レモ両国ガソノ親善関係ノ増進セン
コトヲ希望スルコトヲ述ベラレタリ乾盃辞及御答辞中第一
ニ特記スベキハ日露両国軍隊ニ対スル賞讃ノ辞ナリ日露戦
争当時日本軍隊ハ高潔ナル敵ナリキ日本海軍ハ公海ニ於テ
婦女子ヲ撃沈セルコトナク日本陸軍ハ博物館図書館及寺院
ヲ焼キタルコトナク婦女子及勇士ノ処刑セルコトナカリキ
故ニ今日ソノ勇敢ヲ賞スルヲ得ルナリ千九百四年及千九百
五年ノ戦争ニ対シテハ日本側ニモ何等思ヒ残ス処ナカルベ
シ日露戦争当時騎兵旅団長トシテ多クノ戦闘ニ御参加アラ
セラレタル宮殿下ハ誠心勇敢ナル露国軍隊ヲ尊敬スト仰セ
ラレタリ

閑院宮殿下ノ御渡来ハゲオルギー太公殿下ガ本春日本国皇

ment ravi de cet heureux résultat, m'a chargé d'en exprimer toute Sa joie à Votre Majesté Impériale.

Il est d'ailleurs de mon agréable devoir que d'exposer à Votre Majesté Impériale les sincères sentiments d'estime et d'affection dont mon Auguste Maître est invariablement pénétré à Son égard, et de Lui exprimer également la haute admiration et la grande joie qu'Il éprouve en apprenant que les Armées de terre et de mer placées sous le suprême commandement de Votre Majesté Impériale, jouissant d'un moral de plus en plus excellent, sont en train d'accomplir de glorieux exploits successifs.

在露国本野大使ヨリ
石井外務大臣宛
四一九 十月六日

閑院宮殿下御来露ニ対スル新聞論調報告ノ件

公第一七二号 (十月二十四日接受)

大正五年十月六日

在露

特命全權大使子爵 本野 一郎 (印)

帝陛下ヘ大体祝賀ノタメ御訪問アラセラレタルニ対スル答
札ナルガゲオルギー太公殿下日本御渡来当時ニ比シ兩帝國
ノ関係ハ根本的ニ變化セリ閑院宮殿下ハ既ニ同盟國ノ代表
者トシテ御渡来遊バサレタリ故ニ殿下ノ御渡来ハ更ニ大ナ
ル國際的性質ヲ帶ブ殊ニ殿下ハ日露協會ノ總裁宮殿下トシ
テ日露貿易ノ發展ニ御尽力アルヲ以テ殿下ハ御使命ノ外此
ノ機ヲ利用シテ兩國貿易ノ發展ノタメ御尽力アラセラルル
コトナルベシ日本ノ商工界ハ此ノ点ニ於テ大ニ期待スル所
アルモノノ如シ

首相大隈伯ハ商業會議所聯合大会ニ於テ日本ハ少クモ独逸
ガ露國ニ輸出セル半額ノ引キ受クルコトヲ得ベシトナシ日
本商工家ニ日露協約ヲ活用スルニ努力スベキコトヲ勸告セ
リ之ト共ニ商業會議所聯合大会ハ政府ニ向ツテ聯盟諸國ト
交渉シ輸出入ノ容易ナラシムル様尽力センコトヲ建議セリ
吾人ガ既ニ屢々論ゼル如ク經濟上ノ相互關係ハ相互ニ同様
ノ利益アル場合ニ限り満足ニ發展スベキモノナリ

日本政府ノ機關新聞朝日ハ閑院宮殿下ノ露國御訪問ハ日露
關係ニ新時代ヲ劃スルニ至ルベシト云ヘリ之ニ依リテ是ヲ
觀レバ殿下ハ最近極東ニ發生セル事件ト關係アル或ル種ノ

重要問題ヲ解決スル任務ヲ帯ビサセラルルガ如シ日本ハ露国ガ七月二十六日ノ協約ノ秘密條款ニヨリ約シタルスベテノ義務ヲ履行スベシトノ実証ヲ得タリ閑院宮殿下ハ我が当局及ビ一般有志ト直接御応接ノ際我が国ガ日本ニ對シテ抱持スル誠実ナル同情ヲ御感知アラセラルベシ相互ニ尊敬シ相互ノ利害ヲ尊重スルニ於テハ協約ハ威大ナル同盟ト化シ何等ノ國際變化モ恐ルルニ足ラザルベシ

九月二十七日、ゴース、ルシ社説

日本国皇帝陛下ノ御名代トシテ閑院宮殿下ノ我國ヲ御訪問セラレタル事ハ日露両同盟國ヲ連結スル親善ノ連鎖ヲシテ益々鞏固ナラシムルモノナリ閑院宮殿下ノ御來訪ハ本春我がオルギー太公殿下ノ日本御訪問ニ對スル御答礼ナリ露國ノ社会ハヨク日出國ニ於テゲオルギー殿下ヲ迎フルコト如何ニ懇篤ナリシヤヲ記憶スゲオルギー太公殿下ノ日本御滞在ハ日露兩國ノ關係史ニ新時代ヲ劃セリ太公殿下及友國露西亜ニ對シテ表示セル日本國民ノ熱誠並ニ日本新聞紙ノ記事ハ大ニ日露兩國政府間ノ談判ノ終結ヲ速カナラシメタリ此ノ談判ノ結果ハ吾人ノ克ク知ル所ニシテ日露兩國ハ防守同盟ヲ結ビタリシナリ而シテ此ノ防守同盟ノ締結ハ日露ノ

支那ヨリ來ル物騒ナル報道ハ吾人ヲシテ新同盟ガ兩國ニ貢獻スル日ノ或ハ近キニアルヲ思ハシム同盟ノ鞏固ニシテ恒久ナルニ於テ極東ニ於ケル政事上ノ給料ハ兩國ニトリ何等ノ憂慮ニ値セザルベシ

九月二十八日、デーニ社説

ゲオルギー太公殿下ノ日本行ハ日露協約ノ締結トナリ……閑院宮殿下ノ御渡來ハ日露接近史上ノ新階梯ヲナス條約ハ決シテ條約國ノ實際關係ヲ悉ク律シ得ルモノニアラズ條約ハ單ニソノ一般ヲ律スルニ過ギズ條約ヲ以テ連結セル親善及協同一致ノ程度ヲ定ムルモノハ事件及國際條約ヲ實現スル政治家ナリ故ニ外交の使命ヲ帶ブル訪問ハ此ノ意味ニ於テ大ナル意義ヲ有スルモノニシテ國際政治上ノ暖爐トモ称スベキモノナリ日露ノ接近ハ極メテ最近ノコトニシテ以前ノ角逐ニ代ハレル親善ハ殊ニ之ヲ培養スルヲ要ス吾人ハ日露協約カ如何ナル条件ニテ締結セラレタルヤヲ知ラス加之日露兩國カ極東ニ於テソノ政策ノ完全ナル一致ヲ望ムニハ尚ホ少カラザル精力ト好意トヲ致サザルベカラス故ニ日露政策ノ一致ヲ特示スル行為ハ凡テ非常ニ大ナル意義ヲ有ス

兩國ニ於テ深キ満足ノ情ヲ喚起セリ茲ニ吾人ハ謹ンデ我が國ト剣ヲ共ニシ共同ノ敵ト闘ヒツツアル同盟國ノ元首ヲ代表セララル閑院宮殿下ヲ奉迎ス殿下ガ御滞在中露國民ガ距離コソ遠ケレ英雄の氣質ニ於テ近キ同盟國ニ對シテ抱持スル熱烈ナル同情及誠実ナル友誼ヲ親シク御感知セラレンコトヲ信シテ疑ハザルナリ

日露親善ノ意義及高潔ナル日本國民ニ對スル吾人ノ同情ニ就キテハ日露協約發表當時又貴族院議員來訪當時既ニ露國新聞紙上委細論セラレタル所ナレバ今茲ニ之ヲ繰返サザルベシ日本ニ對スル吾人ノ同情ノ鞏固ナルコトハ當時露國ヨリ見タル日露親善ノ意義ヲ論ズルニ當リテ現ハレタル論調ノ整ヘニ就キテ知ルベシ露國ノ新聞紙中日露協約ヲ極東ニ於ケル確固タル平和ノ保障トシテ又独逸ノ陰謀ニ對スル最善ノ策トシテ歡迎セザルモノハ一モ之レアラザリキ之ト同時ニ新聞紙ハ独リ政治上ノ勘定ニ基クノミナラズ又実ニ兩國國民相互ノ同情ニ基クモノナルコトヲ特記セリ吾人ハ本日御入京ノ閑院宮殿下ヲ謹ンデ奉迎スルト共ニ前記ノ如キ喜ブベキ前兆ノ下ニ締結セラレタル日露同盟ガ今後益々鞏固ナランコトヲ希望ス

日露協約ガ絶対ニ英仏露同盟ト歩調ヲ同フスルコト必要ナリ之ガタメニハ歐洲問題ヲ解決シタル歐洲ガ此ノ間極東ニ發生セル軋轢ニ驚カザル準備ナカルベカラズ

戰爭中日本ハ戰爭ノタメ非常ニ膨張セリ日本ハ北米合衆國及スカンデナヴィア諸邦ト共ニ戰爭ノ結果非常ニ富者トナルベシ地理上ノ地位ハ戰爭ノ狀態ニアル日本ヲシテ中立國ノ狀態ニアルト同様ノ利益ヲ取メシメタルト共ニ政府ノ賢明ナル政策ハ日本ヲシテ物質的利益ノ外著シクソノ政治上ノ地位ヲ高メシメタリ聯盟國側ニ伍セル日本ハ經濟的ニ何等失フ所ナクシテ精神的ニ無限ノ利益ヲ得タリ日本ハ露國ニ軍需品ヲ供給シ英國ニ對シテハ印度ニ於テ仏國ニ對シテハ印度支那ニ於テ援助ヲ与ヘ是等諸國ノ深厚ナル感謝ヲ収メタリ

日本外交ハ専ラ好意ヲ表示シツツアリ此ノ事ハ日本ガソノ使命ヲ果ス上ニ非常ノ便宜ヲ与フルト共ニ極東ニ於ケル聯盟國ノ利益ヲ尊重シ支那ニ於ケル門戸開放ヲ無視セントスル擬愛國者ノ圧迫ニ陥ラザル義務ヲ日本ニ課スルモノナリ

四二〇 十月十二日 久我宗秩寮總裁ヨリ

寺内兼任外務大臣宛

閑院宮殿下東京御着ノ日程通牒ノ件

甲第二二二ノ四号

大正五年十月十二日

宗秩寮總裁侯爵 久我 通 久

臨時外務大臣伯爵 寺内正毅殿

載仁親王殿下露国へ御差遣ノ処本月十三日釜山御着同十四日京都御一泊同十五日午後八時三十分東京駅へ御着可相成候

事項一四 外蒙古ニ関スル露支蒙三者協定關係一件

四二一 一月二十九日

在モスクワ平田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛

露支蒙間電信協約締結ニ関スル件

(三月六日接受)

政第一一號

大正五年一月二十九日

在莫斯科

總領事代理 平田 知夫 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

庫倫發新聞電報ニ拠ルニ客年露曆五月二十五日締結ニ係ル露支蒙協定ニ基キ外蒙古領張家口庫倫哈爾濱ヲ通過スル電信線ヲ蒙古政府ニ讓渡方最近二ヶ月露支蒙代表者間ニ商議中ナリシ処本月二十六日ヲ以テ右ニ関スル協定ノ締結調印ヲ見ルニ至レリ右ノ結果同電信線ハ前頭五月二十五日ノ協定調印以後蒙古政府ノ所有ニ歸スルコトナリ尚之ト同時ニ同政府ノ收入ニ歸スヘキ通過電報並ニ蒙支間電報料ノ件及ヒ其他ノ技術上ノ諸問題モ協定済トナリタル趣ナリ
右為御参考及報告候 敬具

四二二 二月二十八日

在露国本野全權大使ヨリ
石井外務大臣宛

呼倫貝爾ニ関スル露支取極ノ件

機密往第九号

(三月十四日接受)

大正五年二月二十八日

在露

特命全權大使男爵 本野 一郎 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

客年十二月二十八日附機密往第三一號ヲ以テ報告ニ及ヒ置候呼倫貝爾ニ関スル露支取極及同取極ニ関シ在北京露国公使ト支那外交總長トノ間ニ交換セラレタル書翰(露国臣民ト呼倫貝爾官憲トノ間ノ契約締結手續ニ関スル秘密附屬書類ヲ除ク)ハ二月二十六日附法令集第一部第四二號ヲ以テ發表セラレ候条右様御了知相成度此段申進候 敬具

註 日本外交文書大正四年第一冊二七八文書

四二三 三月二十五日

在齊々哈爾濱二瓶領事ヨリ
石井外務大臣宛